



身体障害児でも水を出しやすいようレバー式の蛇口に取り換えられた

久留米養護学校

バリアフリー化へ 蛇口を無償で交換

筑後地区リフォーム業者11社

筑後地区のリフォーム業者十一社でつくる「OTORIモデルクラブ久留米店会」は五日、バリアフリー化が遅れている久留米市立久留米養護学校（同市南一丁目）で、ボランティアによる水道蛇口の使い勝手をよくす

る工事をスタートさせた。

同会の会員業者は生徒が下校した後の同日午後、トイレや教室など十カ所の水道蛇口を、ひねる方式から、左右に動かすレバー式に取り換えた。二月下旬に、試験的に教室など五カ所をレバー式にしたところ「今まで自分で手洗いができなかった子ができるようになった」（同校教諭）と好評だったという。

今後、五十一カ所の水道をレバー式に取り換える予定。同会の江田卓宏代表（四）は「何より子どもたちに役立ちうれしい。取り換え後も、何か不便なことがあればいつでも駆け付けたい」と話していた。

不便な学びや 助けます



久留米養護学校で車いすに乗って不便な場所を確認するリフォーム会社の社員ら
—5日午後5時ごろ、福岡県久留米市

「進まぬ」 「久留米養護学校」 「バリアフリー」

福岡県筑後地区の増改築ム被害が相次ぐ中、社会員会社十一社でつくる「T.O. 献して業界への不信感も一T.O.リモデルクラブ久留米 掃したい」と張り切っている。同市立久留米養護学校のリフォーム工事にボランティアで乗り出す。本紙「ちくご・ありあけ版」(二月十七日付)で、校舎のバリアフリー化が進んでいない現状を知り、「自分たちの技術で、児童生徒の学校生活を改善したい」と市教委に申し出た。「悪質リフォーム」

久留米養護学校は一九七四年に知的障害児を対象に開校、通常の学校と同じ構造で建設された。しかし、その後は身体障害児も受け入れ、現在は小学部から高等部まで百十二人の児童生徒のうち、約四割が車いすを使用。校舎は大規模改修されないまま段差が多く、

無償で改善申し出

地元増改築11社「悪質リフォームの不信も一掃」

車いすに乗っては蛇口に片手しか届かないなど、子どもたちは不便な生活を強いられている。

市は毎年、改善費を予算化しているが「構造自体に問題があり追いつかない状況」(同市教委)という。

そんな現状を本紙で知り、同会はすぐに同市教委に「何か手伝いたい」と申し入れ、市教委も受け入れる方針を決めた。

会員ら八人は五日、校舎を見学。「蛇口をレバー式にして、車いすの子も手が届くように」「ドアに大きな取っ手を付けられないか」などと、アイデアを出し合った。今後、会費で備品などを購入し、工事に着手する。

「現場を見て子どもたちの苦労がよく分かった。できることから取り組みたい」と同会の江田卓宏代表。近藤久美子校長は「民間企業からの温かい目が向けられ、とてもありがたい」と話している。

2月7日付け西日本新聞

バリアフリー化進まず

久留米養護学校

駅や駐車場などで障害者の移動が円滑に行えるように、各施設でバリアフリー化が進んでいる。しかし身体障害児が数多く通う久留米市南一丁目の同市立久留米養護学校（近藤久美子校長、百十二人）では、広い障害者用トイレや、車いすでリターンできるスペースが少ないなどバリアフリー化が遅れている。最も障害者に優しい施設であるべき同校の現状を取材した。（久留米総局・河津由紀子）



エレベーターのない高等部棟で、車いすの生徒を担ぐ教員たち。「授業はなるべく1階で行っているが、多い日には1日に3往復することもあります」

■手洗いにも難儀

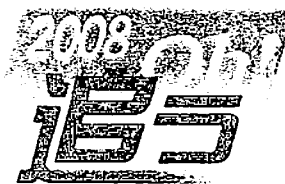
ある日の午後。給食前に、車いすの児童が手洗い場に向いては洗い場まで手が届か

通常学級と構造同じ

市は財政難「建て替え厳しい」

やってきた。しかし障害者仕様ではないため、児童は足元がつかえて正面を向いては洗い場まで手が届かない。車いすの側面を洗い場に近づけ、片手ずつ洗った。蛇口も、ひねって水を出すタイプ。同校には指が自由に動かせない児童生徒も多く、水を出すのも至難の業だ。

教室の出入り口では、車いすを自分で操作して出入りしようとして、ドアにぶつかると児童生徒が転出するという。理由は、出入り口が車いす一台が通るのがやっとの幅しかないからだ。エレベーターは全校で一



校当初、知的障害児のみが対象だった。「身体障害の児童生徒が通うことを想定せず、通常学級と同じ構造となった」（同市教委）という。

一階が正面玄関で、階段を上って入るのも、当時は「モダンな建築」ともてはやされたが、今では多くの

築物や交通機関にバリアフリー化を義務付けるバリアフリー新法が施行された。しかし特別支援学校は、新設や建て替えなどの際にバリアフリー化が義務付けられていないだけで、既存施設は努力義務しかない。昨年二月、同校は保護者と一緒に、バリアフリー化などを求めて江藤守国市長に市民約五千八人の署名を提出。同七月には同市特別支援学校検討委員会も、バリアフリー対策を十分に行うことを提言した。

同市教委の試算では、同校の建て替え費用は十八億一千二百億円。市の財政難に加え、市内各学校の耐震強化なども進める必要がある。「一部改修などは急ぐが、大規模改修や建て替えは、現時点では予算的に厳しい」（市教委）という。

一期目の公約で公共施設のバリアフリー化を掲げた江藤市長は「久留米養護学校は特別支援教育のセンター的役割にする方針で、その内容を検討した後、建物について考えたい」と話している。

■当初は想定せず
障害者に不便な道りになっているのには理由がある。同校は一九七四年の開

■市長に署名提出
〇六年十二月、一部の建